

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局： TBS	番組名：報道特集	放送日：2019年10月5日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、宇内梨沙		
<p>検証テーマ： 香港デモ、オープニング、関電への金品授受が送配電部門でも          自公連立から 20 年、米朝非核化協議          【特集】 原発マネー “還流” の構図          【特集】 香港に栄光あれ！抵抗の最前線から</p>		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 香港デモ</li> <li>・ オープニング</li> <li>・ 勾留停止後逃走の男を逮捕</li> <li>・ 関電への金品授受が送配電部門でも</li> <li>・ 山梨県女児不明事件から 2 週間</li> <li>・ 自公連立から 20 年</li> <li>・ 熊本城被災後の初の見学再開</li> <li>・ 米朝非核化協議</li> <li>・ 関東各地で真夏日</li> <li>・ 法務省で吉本芸人がコント披露</li> <li>・ 【特集】 原発マネー “還流” の構図</li> <li>・ 【特集】 香港に栄光あれ！抵抗の最前線から</li> <li>・ スポーツ報道</li> </ul>		
<p>放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 香港デモ：結論→特に問題なし</li> </ul> <p>香港のデモについて以下に朱記したように取り上げられていた。</p> <p>森岡紀人（報告）「これからこの場所でデモ行進が呼びかけられているんですけども、こちらに集まった人々、今日からマスク着用禁止になったのですが、マスクをつけると叫んでいます。」</p> <p>ナレ「緊急状況規則条例が昨日発令された香港、議会の承認を受けずに行政長官の権限で様々な規則を設けることができるもので、最初の規則でデモの参加者がマスクなどで顔を覆うことが今日から禁止されました。昨日夜は条例の発動を受け、これに反発するデモ隊が各所で抗議活動を行いました、警察は催涙弾などを使い、デモ隊の一部は地下鉄で放火などの破壊行為に及びました。非番の警察官がデモ隊に襲撃される様子、これは香港メディアが報じたもので、映像には頭から血を流す警察官に向けて火炎瓶が投げつけられる様子や警察官が拳銃と見られる武器をデモ隊から取り返す場面が映し出されてます。この日、デモに参加していた 14 歳の少年が警察官から発砲を受け左の太ももに重症を負いました。警察は襲われた警察官が自衛のために発砲したと説明しましたが、1 日には 18 歳の男子高校生が警察官に撃たれていて、デモ参加者への警察による相次ぐ発砲に反発が強まっています」</p> <p>森岡紀人「香港政府が発表したマスクの着用禁止に抗議するデモ隊は一時間ほど前にこちらのオフィス街に到着</p>		

し、先程解散しました。香港島の繁華街で日本時間午後三時から数千人規模のデモ行進が始まり、我々にはマスクを付ける権利がある、などと叫びました。参加した人からはマスク禁止は悪法だ、禁止されてもデモは収まらない、などと政府に反発する声が聞かれました。今日は地下鉄が全線で朝から運転を見合わせている他、こちらの高級ブランドも店を閉めているように、抗議デモによる被害を恐れて 20 以上のショッピングモールが臨時休業を発表するなど市民生活にも大きな影響がでています。一方、香港政府トップの林鄭月娥行政長官は今日午後になって突然ビデオメッセージを発表しました。」

林鄭月娥行政長官「(昨日のデモの) 覆面暴徒による極端な行為に驚く限りだ政府は断固とした法的な手段を鶏、少数の暴徒に破壊させないようにすべきだ。」

ナレ「林鄭長官は自らの言葉で語りかけて混乱をなんとか鎮めたい考えですが、明日以降も香港各所でデモが呼びかけられていて混乱が沈静化する見込みはありません。以上中継からでした。」

このトピックについて当てられた時間は 188 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・オープニング：結論→特に問題なし

金平茂紀「和菓子をいただき箱を開けたらそこの方に金の小判がはいっていた、まるで江戸時代です、一着 50 万円のスーツ仕立て券をいただき、ちゃっかりスーツを仕立てていました。関西電力の経営陣はそれもこれも原発を動かしていくためだったなどとおっしゃっています、特集でお伝えします。」

このコメントに当てられた時間は 22 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・関電への金品授受が送配電部門でも：結論→特に問題なし

スタジオでの日下部キャスターの「関西電力の役員などが福井県高浜町の元助役などから多額の金品を受け取っていた問題で、原子力事業とは別の部門の幹部だった三人も金品を受け取っていた事がわかりました。」というコメントを受けて以下に朱記した VTR が取り上げられていた。

ナレ「関電によりますと、電気を供給する部門、送配電カンパニーの電力システム技術センターの元所長福田隆常務と元副所長二人は高浜町の森山栄治元助役から合わせて 250 万円分の商品券とスーツの仕立て券を受け取っていて、40 万円分は返却していないということです、福田常務らは高浜町にある太陽光発電所にある建設工事三件の情報を元助役に伝えていて、この内一見は元助役が顧問だった吉田開発が受注したということです。一方、今日、野党の国会議員らが高浜町を訪れ、地元住民から話を聞きました。」

"地元の自治会長「こんなこと言っていていいかわからないんですけど、私はこんなところに住みたくない。」

斉木武志（野党追及チーム、衆議院議員）「この機に膿は出し切る、それで企業として再生してもらう、だからまずはもらっていた役員の方には全員退任の意志を示していただくっていうのが、まずスタート地点だと思います。」

ナレ「議員らは今後、関電の役員らの国会招致を求めるなどして、問題の解明に努める方針です。」

このトピックについて当てられた時間は 90 秒で特に問題は見られなかった。

・自公連立から 20 年：結論→特に問題なし

スタジオで日下部キャスターが「自民党と公明党の連立政権が誕生して今日で 20 年になります、安倍政権は政治の安定を強調しますが一方で両党の溝につながりかねない問題もあります。」とコメントした後以下に朱記した VTR が取り上げられていた。

"吉永早織（報告）「自公連立から 20 年、安倍総理は両党の関係を元号、令和の英訳にちなみ、ビューティフルハ

ーモニーと強調します。」

安倍総理「この自公連立の 20 年、平成の政治、そして令和の政治に安定を与えたと思います。まさにビューティフルハーモニーではないか。」

吉永早織（報告）「安倍総理、山口代表はともに連立政権による政治の安定をアピールしています、連立のきっかけは 20 年前、自民党が直面した危機でした。」 "

"橋本龍太郎（1998 年当時、首相）「私の責任です。」

吉永早織「参議院選挙で自民党は惨敗しその翌年の 1999 年、自民、自由、公明の自自公連立政権が誕生、その後、自公連立政権となりますが 2009 年の衆院選では当時の民主党に政権を奪われます、三年後、自公は政権に返り咲きますが、この野党時代が今の安定した政権運営につながっていると山口代表は振り返ります。」 "

山口那津男公明党代表「大変苦しい、風雪に耐えながらの 3 年近くだったと思います、政権を奪還した以降はそうした反省や教訓を活かしながらやはり政権の安定的な運営ということに最大の力を注いでまいりました。」

ナレ「たら、公明党内や支持母体の創価学会からも反対の声が噴出したのが集団的自衛権一部行使を認める安保法制でした。公明党は憲法 9 条の枠内で歯止めをかけたと強調していますが、今新たな火種になりかねないのが、安倍総理がこの臨時国会で議論の加速を促す憲法改正です。」

安倍総理「少なくとも議論は行うべきである、これが国民の審判であります。」

山口代表「選挙で民意が得られた。なんの民意が得られたのかさっぱりわかりませんが。」

吉永早織「この夏の参院選の勝利を受け、憲法改正の議論に民意を得たと強調する安倍総理を山口代表は牽制しています。公明党は加憲を主張し、憲法改正について国会で議論することには理解を示していますが、9 条への自衛隊明記を掲げる自民党とは大きな隔りがあります。この臨時国会で会見議論は進むのか、自民公明の連立のあり方にも大きな影響を与えそうです。」

このトピックについて当てられた時間は 196 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・米朝非核化協議：結論→特に問題なし

ナレーションによって「北朝鮮の非核化などをめぐる米朝の担当者による実務者協議がスウェーデンのストックホルムで先程始まりました。米朝関係筋によりますと、この協議でアメリカ側は石炭輸出を期限付きで容認するなどの提案を行った上で寧辺の各施設の解体を求めると見られます、北朝鮮が弾道ミサイルを発射する中、実質的な非核化の議論に入れるかどうか焦点です。」とのことが伝えられた。このトピックについて当てられた時間は 29 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】原発マネー“還流”の構図：結論→問題あり

スタジオで膳場キャスターの「特集です。原発立地地域の福井県高浜町の元助役から関西電力の幹部らが、3 億 2 0 0 0 万円もの金品を受け取っていた問題です。」というコメントに金平キャスターが「えー関西電力は今週 2 度目の記者会見を行いました、真相解明にはほど遠いものでした。」と返した後に、以下に朱記した VTR が取り上げられていた。

金平「えーあたかもその森山氏という特異なキャラクターを持った人によってですね関西電力が被害を被ったような、そのような印象を受けるのですけれども、税務調査以前には全くそのことは知らなかったということですか？」

関西電力岩根茂樹社長「あの一私自身ですね、一度森山さんと会っておりますので、その際にですね、金貨をいただいております。就任のお祝いということでいただきましたので、お菓子か何かかと思っていれば、その下に金

貨が入っていたわけでごさいますて、非常にびっくりして、原子力事業本部の人間に聞きますと、なかなかすぐに返すのは苦労していて、返せるタイミングで一緒に帰すと申しましたので、よろしくお願ひしたいということで、会社の金庫に保管したんですが、まあそのときにはそういう人間が複数いるのかなと思っていたが、やはりそのときにですね、全貌を把握できなかったことについては、誠に申し訳なく思っています。」

ナレ「関西電力の幹部20人が、原発のある福井県高浜町の元助役から、3億円以上の金品を受け取っていた問題。今週水曜日の会見で金品の内訳などが明らかになった。現金や商品券など、およそ2億2千万円。さらには金貨、金杯、1着50万円相当のスーツの仕立券など合わせて3億2000万円相当に上る。」

ナレ「金品を渡していたのは、今年春に亡くなった高浜町の元助役、森山栄治氏だ。」

関西電力 八木 誠会長「地元の有力者、特に原子力事業に大きな影響があるお方の機嫌を損ねてはいけないという、損ねるといふことは、当社の原子力事業に大きな影響がある。」

ナレ「現地で、取材を進めると、原発マネーをめぐる関西電力と森山氏とのふ頭んじえいな関係が見えてきた。」

男性「森山 Mさん言うたな当時。Mさん詣でいうた。」

[CM]

金平「関西電力、高浜原子力発電所の1号機、2号機、3号機、4号機が目の前にある関西電力の第2回目の記者会見では、東日本大震災後は、原子力発電所の早期再稼働を実現することが、喫緊の課題となっていたので、森山氏への対応の頻度が、大きくなっていったというように釈明していました。」

ナレ「福井県には、高浜、大飯、美浜、敦賀の4つの原発がある。現在高浜原発では、1、2号機などで、安全対策の工事などが行われていて、街には多くの工事車両が走っている。作業員は、関西電力幹部の会見をどう受け止めたのか。」

"原発関連工事の作業員「あるんやなてそういうのが、やっばお金の流れがすごいんで。分からんすね。感覚が」

金平「感覚分からない？あーそうですか。」 "

"金平「そういう話皆さんと、仲間とします？」

作業員「あんまり中ではみんなそういうふうな話はしないです。」

「言いづらい感じじゃないですかね。やっぱり。」

金平「そうですか。」 "

作業員「みんな仕事もらっとる立場やし。」

"金平「中では、一人で一億円以上の金品を受領していた人もいるって言ってるんですけど、」

作業員「はっはっはっはっは。そうなん。もらいすぎちゃう？」

記者「どう思われますか？」

作業員「どう思われるいうてもなあ。僕らは下手なこと言われへん。思うことはそれは確かにあるけど。」 "

ナレ「金澤国税局の調べをきっかけに明らかになった構図はこうだ。」

ナレ「高浜町の元助役森山氏から、関西電力の幹部20人に送られたのは、3億2000万円相当の金品。一億円以上の金品を受け取っていたのは、2人で、いずれも当時、原子力事業本部の幹部だった。一方の関西電力側は、森山氏が顧問をしていた建設会社、吉田開発に工事を発注。森山氏には、手数料として、3億円が支払われていた。さらに吉田開発を含む2社から直接、関西電力の幹部3人に、400万円相当の金品が、送られるケースもあった。」

ナレ「なぜ、幹部は金品を受け取り続けたのか。関西電力側が主張したのは、森山氏の言動だ。」

"森山氏（ナレ）「なぜワシの志であるギフト券を返却しようとするのか。無礼者。ワシを軽く見るなよ。」

「お前の家にダンプを突っ込ませる。」 "

岩根社長「非常に、我々の担当の方ですね、非常に厳しい恫喝がされるということが、おそらくこの7年前から続いていた。」

記者「なぜ警察に通報するという対応が撮れなかったんでしょうか？」

岩根社長「やはりちょっと『森山案件』は会社の中で特別だという意識が担当の間で前から続いている前例、伝承も含めてですね、『森山の影』というのが強くなってそういう判断になったと思う。」

ナレ「関西電力側は、金品の授受はあくまで個人で対応してきたので、工事の発注プロセスは適正だった。としている。」

ナレ「だが、公表された社内報告書には、予定工事の概算額などの資料を森山氏に手渡していたこと。総務部長が、森山氏に報告する情報が無いか、関係部門に確認をしていたことが記されている。」

記者「一定程度組織として特殊な情報開示に対応していたことにはならないのか？」

岩根社長「組織間の連携があった行為であることは認めます。それぞれの担当がどの程度これを認識していたかについては、私はきょう現在分からない。」

記者「こういう情報開示していいのかという疑問とかっていうのも挙がっていなかったんですか？」

岩根社長「基本的に立地地域を重視する考え方は従来からやっておりますし、ただ数としてはこちら（吉田開発）の方が圧倒的に多かったのは事実でございます。敷地造成があったので、結果として、吉田開発の仕事が増えているということでございます。」

ナレ「吉田開発への発注は、直接発注額だけを見ても、2013年からの6年間で、6倍以上伸びていた。」

記者「特定の個人が皆さんに渡すってということは、どこからお金を持ってきたということになるかと思うんですけども、」

岩根社長「わたくしは金貨・金品の出所がどこにあるか、そのことは全く承知しておりません」

ナレ「ほとんどの金品は返却済みで、違法性はないとの主張を繰り返した経営トップ。辞任については否定した。」

金平「経営者として、倫理的な責任というのは、あると思うんですね。えー今とどまって身をお引きになるという考えは無いという理由は何なんでしょうか？」

岩根社長「さまざまな、課題がございまして、今回の皆さま、お客様、従業員も心配しております。非常に大変な時期と思っております。私少しでもそういう状況の皆さんのためにですね、何かお役に立てないかという気持ちで申し上げております。」

金平「おとしの1月から使われ始めた高浜町の町役場の庁舎ですね。えー中に入りますと、天井にああやってたくさんのお木が使われていてですね、とってもおしゃれなつくりになっていますね。」

ナレ「役場は、福井県産の杉を使ったモダンなつくりになっていて、総工費は31億円あまり。この庁舎を含め、町には多くの原発に関連する交付金で建てられた施設がある。町の今年度の予算を見てみると、105億円のうち、半分以上の55億円が、原発関連の交付金を財源としている。町の人はどう感じているのか。」

"高浜町民（77）「私は、関電さんが気の毒なのかなと思います。」

金平「気の毒？ だけど、金品を受け取ってんですよ」

高浜町民「いえ、それはいろんなことがあって、恫喝されたとか言っているいろいろいわれとりますけどね、そういう事情もあったと思いますが私にはよくわかりませんが、そういう事情が。私が町長なら、関電さんにすんませんでしというて、謝りますけども、」

"金平「関電の偉い人がみんな・・・」

高浜町民（83）「わしも欲しかったな。うんそんなんやったら、もっと上手にしておけばよかった。」

ナレ「森山栄治氏とは、どんな人物なのか。森山氏は高浜町で、町長に次ぐナンバー2の役職、助役を1977

年から、10年間務めた。町の歴史をまとめた冊子には、森山氏の姿が。その隣に座る当時の町長、田中とおる氏は、森山氏の仕事ぶりについてこう語る。」

高浜町元町長 田中通氏（93）「やり手というね、そういう感じやったでした。元ごとをてきぱきとする。それから催しものをやっても、お花の位置は、テーブルの右に置くか、左に置くかということまで命令したり、」

ナレ「今回、高浜町の取材で、森山氏が収入役だった当時、町長よりも最大で、2割高い給料を受け取っていたことが分かった。高浜町では、その理由は分からないとしている。」

ナレ「助役を退職した後も、森山氏の影響力は強かったと田中氏ははなす。」

"田中氏「森山？Mさん言うたな。本当にMさん詣で言うてた。」

記者「Mさん詣で？」

田中氏「うん。Mさん詣でいうて、京都に福井から来とる。そういう話を聞いたことがありました。まあ」

"記者「正月にはみんな行ってたんですか？」

田中氏「うーんみんなそこまで一生懸命、頭を下げに行かないといかんのかなーというようなね。」

"記者「なんでみんなあ頭を下げに行ってたんですか？」

田中氏「なんでか分からんけどなーいろいろ頼みごとがあつたのかな？」

"金平「どうもー」

ナレ「福井県、小浜市にある明通寺の住職。中寫哲演さん。長年、原発反対運動に携わってきた。今年6月中旬、中寫さんの許に、ある文書が送られてきたという。」

中寫さん「どういうふうを受け止めていいのか。当時の私たちはまだちょっと曖昧なところがありまして。」

ナレ「関西電力株式会社の原子力事業本部におきまして、40年を超える長年にわたり、大きな不正が行われてきました。」

ナレ「差出人は、関電良くし隊。この他にも、今年3月から6月の日付で、岩根社長らに宛てた4つの文章が同封されていた。3月10付け、岩根社長あて。」

文書「関西電力が第二2の日産にならぬよう、岩根社長に忠言します。利益供与された金が、原子力事業本部、地域共生本部などの会社幹部に還流されていた。利益供与の原資は、協力会社への発注工事費を介して渡された。」

ナレ「文書は、安田開発や、森山氏の名をあげ、関西電力幹部が、金を受け取っていたなどとして、職務から追放するよう求める内容だった。」

ナレ「さらに4月の日付で、最後通牒と題された文章。6月の日付で情報開示すると通告する内容があった。」

ナレ「会見終了後、岩根社長にこの文章を見せると、」

"金平「岩根社長、これ読んでください。これ受け取られたんですか？お納めください。」

岩根社長「読んだ記憶ございません。」

"ナレ「関西電力は、私たちの取材にこう答えた。」

関西電力「本年3月から、6月の間に岩根社長宛ての同様の文書を受領している。文書を受領以前に、既に社外委員である弁護士も含めた調査委員会において調査を実施し、その評価に基づき、関係者の処分を行うとともに、再発防止策に取り組んでいたことから、改めて対応は行っていない。」

ナレ「高浜原発をはじめ、再稼働差し止め訴訟を起こしてきた河合弘之弁護士。今回、会見で出された報告書で、吉田開発への発注リストが全て黒塗りだったことに憤る。」

"河合弁護士「これがね、昨日発表された表の」

膳場「完全に黒塗りですね。」

河合弁護士「これ全部黒塗り。これね、何も話たくありませんという意思表示ですよ。全部隠させてください。」



みてください。これ。」

ナレ「菅原一秀経済産業省大臣は、昨日の会見で、他の電力大手8社から、同様の事例は無いと、報告をうけたとしたが・・・」

河合弁護士「原発というのは、もともと汚濁構造になる宿命を負っているんですね。過疎の地域に、原発を作る。で、もともと嫌忌施設。要するに嫌われる施設なんですね。それにも関わらず、とにかくどこから、原発を作るには、お金をじゃぶじゃぶ突っ込むしかないんです。じゃぶじゃぶお金が突っ込まれると、必ずそれを仕切る人がでてくるんです。だから僕は、日本全国の各原発について、あの一水平展開的調査をきちんとすべきだと思う」

特集のVTRをうけてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返された。

膳場「えー取材した河合弁護士が指摘されていたんですけども、関西電力が会見で言った通りなのであれば、森山元助役というのは、強要罪で告訴が可能だったということなんですね。受け取る義務がないのに、無理に受け取らせるとするのは、強要罪にあたるわけですからね。なので、それをしなかった企業としての見識のなさにもちょっと驚かされました。」

金平「全くそのとおりですね。その、見識のなさ以上にですね、本来ならば会社の不正をチェックする監査役機能が全く聞いていないというかね。だから企業統治の内容にも啞然とさせられましたですね。」

日下部「記者会見の中で金平さんふれてましたけれども、関西電力がまるで被害者のようなものいい。とても違和感を覚えました。」

金平「あの会見で終始一貫して被害者だってそういう口ぶりだったんですけども、ただ大枠で見ますとね、関西電力はその、森山氏を一つの駒として使っていたことは間違いないわけで、どうもそれが原発事業の維持のためにと強調したわけですけどね、その死人にくちなし。森山さん亡くなってますから、この構造的な不正ってのがですね、安易にあるいは政治的に幕引きされないようにですね、きちんと取材を続けなければいけないと思いますね。後ですね、関電を良くし隊という名前で差し出された内部告発文書ですけども、内容をよく読みますと、非常に内部事情に精通している人物だなーと推測できるんですね。あの一関電の内部、社内でもですね、非公開だった原子力事業本部のコンプライアンス委員会の動きなんかですね、隠蔽のための作戦会議と化していると具体的に批判しているわけですね。不正にかかわった経営陣の名前も実名を挙げてますし、もしこのテレビをご覧になっていればですね、情報をですね、さらにメディアの方に開示していただきたいというふうに思います」

この特集にあてられた時間は1213秒だった。

VTRでは森山栄治元助役についてもある程度触れられており、それを見る限りにおいては今回の事件の全容を解明するには、この森山氏についてももっと深く掘り下げていくことが必要不可欠であると考えられる。

しかし、スタジオでの論調は日下部キャスターの「記者会見の中で金平さんふれてましたけれども、関西電力がまるで被害者のようなものいい。とても違和感を覚えました。」というコメントや、金平キャスターの「あの会見で終始一貫して被害者だってそういう口ぶりだったんですけども、ただ大枠で見ますとね、関西電力はその、森山氏を一つの駒として使っていたことは間違いないわけで、どうもそれが原発事業の維持のためにと強調したわけですけどね、その死人にくちなし。森山さん亡くなってますから、この構造的な不正ってのがですね、安易にあるいは政治的に幕引きされないようにですね、きちんと取材を続けなければいけないと思いますね。」のコメントに代表されるように、関電の言い分を真っ向から否定するものだった。

特に金平キャスターは「大枠で見ますとね、関西電力はその、森山氏を一つの駒として使っていたことは間違いない」とまで断じているが、関電が森山氏を一つの駒として使っていたのであれば、リスク管理をすることでそもそも今回のような事態になることを防げたのではなかろうか。むしろ、今回のような自体になってしまった

事自体が関電も森山氏には相当程度手を焼いていたことが推察できるし、VTRでも森山氏は1977年から10年助役を務めていたことや、収入役当時も町長よりも最大で二割高い給料を受け取っていたにもかかわらず高浜町ではその理由がわかっていないなど、ここ数年の問題ではなく相当程度長期間に渡って影響力を持っていたり不透明な部分を抱えていた人物ということが伺える。

やはり、森山氏についても十分に掘り下げなければこの事件の全容を解明することは不可能だと考えるのが自然であるが、そうした際に金平キャスターのいうような「あの会見で終始一貫して被害者だってそういう口ぶりだったんですけれども、ただ大枠で見ますとね、関西電力はその、森山氏を一つの駒として使っていたことは間違いないわけで、どうもそれが原発事業の維持のためにと強調したわけですけどね、その死人にくちなし。森山さん亡くなってますから、この構造的な不正ってのがですね、安易にあるいは政治的に幕引きされないようにですね、きちんと取材を続けなければいけないと思いますね。」という姿勢で取材を行うというのは、その取材自体の立脚点が著しく偏ったものとなってしまう、結果として非常にバイアスのかかった取材・報道がなされてしまう恐れがある。

今回の報道特集にしても、森山氏というキーパーソンについて謎は深まる一方であったのに、スタジオでは「大枠で見ますとね、関西電力はその、森山氏を一つの駒として使っていたことは間違いない」などという論調で結論付けられるなど、極めて政治的に偏った構成となっており、放送法第四条一項二号「政治的に公平であること」という点からは問題のある特集だった。

またこのテーマについては結論ありきの姿勢での取材・報道が事実を歪めてしまう可能性もあり放送法第四条一項三号の「報道は事実をまげないですること」という点からも問題がないかどうかを今後も中止する必要があると考える。

・【特集】 香港に栄光あれ！抵抗の最前線から：結論→特に問題なし

膳場キャスターの「さて、続いての特集は、デモ参加者の覆面禁止法が今日施行されて、混乱の続く、今日、香港です。」というコメントを受けて、日下部キャスターが「中高生が相次いで実弾で撃たれるなど、市民の怒り、不信感は過去に例がないほど、高まっています。様々な形で展開される抗議活動の最前線にいる当事者たちを取材しました。」とコメントをしたのちに、以下に朱記したVTRが取り上げられていた。

ナレ「世界有数の金融センターとして発展してきた香港。100万ドルの夜景は、その象徴だ。夕闇の訪れとともに、あるメッセージが浮かび上がる。中国の建国70周年国慶節を祝うものだ。このビルでも、花火のグラフィックと、祝賀の言葉が、繰り返し、現れる。」

ナレ「一方、街では、市民のメッセージを貼るレノンウォールが。」

日下部「こちらには、行政長官とかですね、親中派の議員の写真がこう床に貼ってある。市民がああやって、踏みつけながら、歩くようになってますね。」

ナレ「国慶節の10月1日には、大規模が呼びかけられていたのだが、」

[CM]

ナレ「今週、月曜日、国慶節を翌日に控えた香港で、ある店の前に行列ができていた。」

日下部「えー国難五金、国難は国難、五金はですね、香港で金物屋という意味があるそうです。それで何を打っているかというとですね、こういった今や香港のデモには欠かせないヘルメットとか、ゴーグル。こういったものをこの店で売っていて、明日大規模なデモが予定されているということで、えーこれだけ多くの人が、買い求めているわけです」

ナレ「ネットで突然開店を宣言し、わずか1時間後、」



日下部「ゴーグルが売り切れた。すごい売れゆき。」

"日下部「で、何買ったの？」

女性（吹替）「ゴーグルを3つほど買いました。」

日下部「ゴーグル。これが、ああーゴーグル。」"

"日下部「どうしてこの店で買ったんですか？」

女性「一般のお店ではもう買えないから、こういう突然開くようなお店でしか買えないんです。」"

ナレ「この高校生は、デモ隊の救急医療班。それと分かる服装で、デモに参加しているという。」

"日下部「怖くないですか？」

高校生の男性（吹替）「怖いです。警察は私たちが中立な立場だと知っているはずですが、最近は何も構わず殴ってきます。」"

ナレ「翌日の国慶節当日、北京では、大規模な軍事パレードが行われた。香港の林鄭月娥行政長官も、参列した。そのころ、香港では、街のあちこちでデモが始まった。」

日下部「北京では大規模な軍事パレードが行われたわけですがけれども、ここ香港では、民主化、デモの時のシンボルである雨傘を差したですね、市民が、このメインストリートを埋め尽くしています。」

日下部「5つの要求を呑めということでみんなこうやって片手をかざして、手を広げてですね、デモをしています。」

ナレ「5つの要求とは、デモを暴動と認定したことの取り消し、警察の暴力に関する独立調査委員会の設置などだ。逃亡犯条例の改正案撤回は既に認められた。」

日下部「今ちょうど、デモ隊の若者がですね、道路にバリケードを築いているところです。彼らは勇武派とこちらで言われているんですけども、常にこういったデモの先頭に立ってですね、まあある意味目的のためにはですね、暴力も辞さないという、グループですね。」

ナレ「建設中の高層マンションの資材を使い、勇武派と呼ばれる若者たちが、道路を封鎖していた。そして、事件は起きた。」

ナレ「警官隊との衝突で、高校生が実弾を発砲されたのだ。至近距離で左胸を打たれた。」

実弾で撃たれた男性（字幕）「胸が痛い。病院に行きたい。」

ナレ「高校生は、一命をとりとめたが、その後、暴動罪などで起訴された。私たちは、現場に向かった。」

日下部「えー一連の抗議活動の中で、初めてですね、実弾によるけが人が出てしまいました。こちらにあるですね、この上海料理屋なんですけども、その前ですね、警察官の発砲によって、けがをしました。」

ナレ「現場近くで、若者たちに聞いた。」

"日下部「同じ年の子がやはりやられたら、やっぱり怖くないですか？」

高校2年の男子生徒（吹替）「もちろん。胸を狙ったのは、命に関わる問題です。警察の暴力は度を超える一方で、警察本来の規律が守られていません。」"

20台前半の女性（吹替）「人々はデモ隊よりも警察を恐れています。文明社会でばかげています。」

日下部「今の警察ってのはもう、一般の人達を守る存在ではないんだ？」

20台前半の女性（吹替）「警察がいない方が安全です。」

ナレ「現場近くでは、道路をふさぐように、火が放たれていた。」

ナレ「また、鉄棒を持ったデモ隊が、防犯カメラを破壊しながら、路地を練り歩いていた。」

ナレ「警察はこの日、実弾6発を発射し、一連のデモで、最多となる269人を逮捕した。」

ナレ「どんな思いで警察と対峙しているのか、私たちは、勇武派のメンバーに話を聞くことができた。」

日下部「できる範囲で良いんですけども、自己紹介をお願いしますか？」

大学生「今19歳で、大学生です。」

ナレ「グリーンと名乗る男性は、日本のアニメとドラマで日本語を覚えたと話す。」

日下部「何かけがをしたりしました？やっぱり警察の力は圧倒的でしょ？」

勇武派の男性（19）「そう、圧倒的。」

"日下部「怖いでしょ？」

勇武派の男性「もちろんですよ。とても怖くて、何度も死んだと思って、きっとなんかでも、怖くても行かないや」

日下部「どうして？自分の自由を守りたいでしょ。その香港は俺の生まれた場所で守りたい」 "

ナレ「彼は、全線でバリケードを作ったり、ブロックを投げたりしているという。」

日下部「非常にデモの最前線に立つと、危険なことも多いでしょう？」

"勇武派の男性（吹替）「警察はゴム弾や催涙ガスなど、全部頭を狙ってきます。とても危険です。」  
「催涙弾がヘルメットにあたりたり、ゴム弾で首を撃たれてけがをしたこともあります。」 "

"日下部「警察に対して今どんな思いを持っていますか？」

勇武派の男性「警察は犬でしょう。政府の犬です。」 "

ナレ「仲間とは、常にスマートフォンで連絡を取り合っている。」

ナレ「こういったデモが起きるまでは、前線に立っている仲間のことを知らなかったわけですか？」

"勇武派の男性（吹替）「今も知りません。」

日下部「知らない？」

勇武派の男性（吹替）「知らない。ニックネームと、男か女か知っているだけで、あとは何も。」 "

"勇武派の男性「これは警察のインフォメーションのネットですよ。」

日下部「これも見れるの？」 "

ナレ「これは、警察官の写真や個人情報を集めたサイトだ。自分たちが香港のどの街でデモを行うのかもネット上で選択し、共有している。なぜ平和的なデモではだめなのか？」

勇武派の男性「平和的な100万人デモ、200万人デモのすぐ後に、政府は、逃亡犯条例の成立を目指すといいました。政府は平和的なデモを気にも留めていません。激しい手段を取って、せめて行かなくてはなりません。」

日下部「今、デモ隊がつけた火がですね、かなり激しく燃え上がっています。」

ナレ「香港市民の警察に対する怒りが沸点に達したきっかけ、それがこの8月31日のデモだ。私たちも現場にいた。」

日下部「デモ隊と機動隊が対峙する最前線に立っています。先ほどから何度もこう、なんどもですね、」

ナレ「警察はデモ隊に向け、躊躇なく催涙弾を発射し続けた。」

ナレ「この日の衝突ののち、地下鉄の入り口に、祭壇が設けられた。花を手向ける人が次から次に訪れる。そのわけは・・・」

日下部「八月三十一日に、この駅の構内で、警察による激しいですねデモ隊の取り締まりが行われました。その際死者が出ただけけれども、警察はその事実を隠しているんじゃないか。市民たちにこういった情報がですね、パーっと広がったわけですね。えー警察はもちろん死者が出たという事実を否定しているんですけども、ご覧のようにですね、祭壇のように花が飾られ、市民たちの警察に対する不信感、それを象徴する場所だと思います。」

女性（吹替）「私はデモ隊に感謝しています。自分の命を差し出して、香港のために大きな貢献をしてくれています。それでも政府は事実を隠し通そうとしています。正義に反しています。」

ナレ「デモが活発化した6月以降、逮捕者は2000人を超える。この女性は、前日に23歳の息子が、逮捕されたと訴える。」

息子が逮捕されたと訴える女性（吹替）「あっちの方で大声を出したという理由で逮捕されました。息子は殺人犯でもないのに、面会できません。重い罪ではなく、声を挙げただけなのに。すごく心配です。」

ナレ「警察への強い不信感を示すデータがある。地元メディアのアンケート調査によると、デモ隊と警察について、不必要な暴力を用いているか聞いたところ、デモ隊は40パーセントだったのに対し、警察は72パーセントにも上った。高校生が撃たれた夜、撤収しようとする警察に対し、沿道にいた市民たちが罵声を浴びせかけた。」

"沿道の市民（字幕）「犬がいるぞ、犬がいるぞ」

警察（字幕）「ここで大声を出すことは許されない。公衆の場で罪を犯すことになる。」

市民（字幕）「お前らは鬼だ。」 "

日下部「これはあれだな、ブーイングですね。市民から警察の車両に向かってブーイングが起きてる。」

ナレ「別の勇武派の男性にも話を聞くことができた。20代で会社勤めだという。」

日下部「あの一警察の部隊とこう向き合っているとき、どういう気持ちですか？恐怖感があるんですか？」

勇武派の男性（吹替）「まず怒り。次に恐怖。とてもリアルな感覚です。誰もが突然殴られたり、連行されたりしたくないですから。」

ナレ「一連のデモには大きな特徴がある。それは・・・」

勇武派の男性（吹替）「私が確信を持って言えるのは、この運動にリーダーのような人物は全くいないということです。」

ナレ「リーダーがいない運動。彼も自らの判断で最前線に立つ。」

日下部「平和的なデモだけでは解決できないと思いますか？」

勇武派の男性（吹替）「平和的なデモと勇武派は異なる道を歩いているわけではありません。平和的なデモだけに頼っても、要求は通りません。同時に勇武はだけに頼っても、国際的な支援や、世論の支持、団結は得られていないはずです。」

ナレ「周りには遺書を準備している仲間もいるという。」

勇武派の男性（吹替）「心の中にある天秤を掛けて自由や民主主義といった普遍的な価値観、中でも自由が自分の命より大切と思えば、失っても構いません。それでも香港の自由と民主主義に貢献したい。私はそんな仲間を尊敬しますが、社会全体で考えると、とても悲しいことです。」

ナレ「一方、中高生たちは、新たな形で抗議活動を展開している。先月二日には、」

日下部「台風の影響があります。すごいねえ。えー雷。台風の影響で非常に土砂降り状態。えー今日は九月最初の月曜日。香港の新学期にあたります。えー学校を休んでですね、抗議活動を続けているところです。」

中高生（字幕）「五大要求、一つも欠けるな。」

ナレ「雨を逃れ、建物の中で声を張り上げる。」

高校生（吹替）「先生は私たちを支持しています。けがをしないように違法な行為をしないでほしいと言ってくれます。」

高校生（吹替）「もし、香港が自由と民主主義を失ったら、将来大学に進学しても展望が開けないと思います。この香港ではね。」

ナレ「中高生たちは、授業に復帰すると、別の形で抗議活動を始めた。先月下旬。」

中高生たち（字幕）「こっちに降りてきて。」

ナレ「午後6時、様々な学校の生徒たちが集まっていた。視線の先にあるのは巨大な垂れ幕。墨で書かれている

のは・・・」

日下部「ちょうどね、香港に栄光あれの題名がかかれた垂れ幕が、非常に大きな垂れ幕がですね、ショッピングモールに掲げられています。」

ナレ「香港に栄光あれとは、今民主化を求める人たちの間で強く支持されている歌だ。」

中高生たち(字幕)「歌、夜明けだ 取り戻せわが香港を。 みな正義のため いま革命を どうか民主主義と自由が永遠であれ。香港に栄光あれ 時代革命」

ナレ「店員など周囲の大人が遮ることはない。」

日下部「香港の自由を守ろうという市民の間で、今や香港の国歌であるといわれるこの香港に栄光あれが、何度も何度も合唱されています。中学、高校生たちがですね、企画したこの集会ですけれども、一般の人たちの姿もかなり目立ちます。」

ナレ「こうした動きに対抗し、親中派は中国の国歌を合唱する集会を開いているが、」

日下部「えーホンコクという繁華街ですけれども、こちらのショッピングモールではですね、親中派の人たちが、中国の国歌を歌う予定だったんですけども、ちょっと様子が違うようですね。あっ、やっぱりそうだ。どうも民主派の人たちが、先乗りしてですね、香港に栄光あれ。これの合唱を始めています。」

ナレ「午後7時過ぎ、大人たちが声を合わせて歌う。」

ナレ「今週火曜日、国慶節の抗議活動でも、」

デモ隊(字幕)「♪どうか民主主義と自由が永遠であれ。」

ナレ「この歌は、いつ、誰が作ったのか。制作の中心になった人たちに、話を聞くことができた。全員が20代だ。テレビカメラによる取材に初めて応じるという。」

日下部「それにしてもこんな、皆さん若い人たちが、こんなに影響力のある曲をね、作ったてのはなんかすごい新鮮な感じが僕はします。」

作詞作曲を担当した男性(吹替)「香港人がこの数か月間で抱いた感情をありのままに表現しました。それで反響があったのでしょうか。」

"アレンジを担当した女性「砂漠の中の水みたい。本当に疲れているときに希望が見えてくるのが、すごく強く感じています。」

日下部「砂漠の中の水だ。」

アレンジ女性「力をもらえるし、て、次の一步を踏み出せる。」"

ナレ「日本を含めた複数の国歌や軍歌を参考にし、自宅のキーボードで、8月中旬に曲を作った。最初のバージョンがこれだ。」

曲「♪～」

作詞作曲男性(吹替)「8月26日に草稿段階の歌詞と一緒にインターネットにアップしました。何千件ものコメントがあって、歌う人もそこで募集しました。」

ナレ「これをみて、音の調整を担当するシングエンジニアの男性が参加。爆発的に広まるきっかけとなったミュージックビデオが完成した。」

MV「♪～」

"アレンジ女性「これ聞いて泣きました。」

日下部「誰が？」

アレンジ女性「私。感動的な感じがあって、本当に国歌みたい。」"

ナレ「その後、彼らとは無関係の人たちがデモ隊に扮したミュージックビデオを作る動きもあり、この一か月あ

まりで、急速に拡散した。」

日下部「もうこの曲があまりにも影響力が大きいんで、いわゆるこの曲を批判するような声は皆さんにも、聞こえてくるんですか？」

編集を担当した男性（吹替）「ある新聞社に、この曲は香港独立、極端な思想を宣伝するものだと書かれました。政権よりの新聞社でした。そういう新聞社に批判の記事を書かれるということは、つまり、私たちのやっていることが正しい証拠だと思いました。」

日下部「名前出さないじゃないですか。これはなぜですか？」

作詞作曲男性「今回の運動が持続的に続いている理由は、リーダーがないからです。この曲を聞いて私たち個人を思い出してほしくはない。曲を聞いて、民主と自由を求める運動を思い出す。目標を思い出す。これが私たちの望みです。」

特集のVTRを受けてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返された。

膳場「あの歌、香港に栄光あれ。歌に託した香港人の思いとか、民主主義を求めるエネルギーを感じて、なんか心を動かされるような感じがしました。エーデモが始まってしばらくしたころに日下部さんから香港でこんな歌が今広まっているんだよって、聞いたのを思い出したんですけれども、どうして今回取材をしようと思ったんですか？」

日下部「あの一ニュースで伝えられる香港って、衝突の映像ばかりでしょ？だけど、リーダーなき抗議活動ってホント、様々な形があってですね、そんななかでこんな匿名のチームがですね、プロテストソングを作ったというんで、ぜひ話を聞きたいなあとと思って、会いに行ったんですけども、実際に会ってみると、本当にどこにでもいるような20代の若者たちでしたね。でも彼らはあくまでもリーダーは出さない。ヒーローにはならない方針ですから、ネット上に公開されると、ある程度彼らの手を離れていって、そこでネットの中でいろいろなアイデアが集まって来て、さらに香港の人たちの歌になってくんですね。本当に何かちょっとジーンとする、来るものがありましたね。」

金平「何か激動期っていうのは、歌は生まれてきますよね。あの国慶節が終わってから、一気に強硬姿勢ってのが現れてきたように印象を受けるんですが、そのあたりどうなんでしょうか？」

日下部「国慶節の際、行政長官をはじめ、親中派の議員が北京に行ったんですね。そこでなんか分かれたような気がしますね。今日施行された覆面禁止法というのは、同時に発動された緊急条例に基づくもので、この緊急条例というのが曲者で、行政長官がですね、議会を経ずに様々な規制ができると、例えば夜間外出禁止令とかですね、インターネットの遮断もやろうと思えば、できちゃうわけですね。ただそんなことでは市民を抑え込めないと私は思いますし、もしそういうことをやるとですね、香港が一番大切にしてきたもの、ルールブロー、中国に無いものですね、これをやってしまうと香港は香港でなくなってしまうと思いますね。」

この特集に当てられた時間は1600秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・【特集】原発マネー“還流”の構図

原発立地自治体といえども一地方自治体の助役が億単位の金を動かせるものなのだろうか、森山氏に対する疑念は深まる一方であった。



ところで、今回の事案のキーパーソンである「森山栄治」をグーグルで検索してみると同姓同名の俳優、森山栄治氏がヒットする他、関連キーワードとして「部落」であるとか「解放同盟」といった単語がサジェストされてくる。またネットでは「同和利権」なるものとの関係を指摘するような意見も散見される。こうした意見が事実なのかどうかという問題はあるが、いずれにしてもメディアとしてもこうしたネット上でそれなりに散見される説に対してはファクトチェックをしていき事実なら事実として摘示する必要があるし、逆に事実でないなら事実でないということを伝える必要があるのではなかろうか。

・【特集】 香港に栄光あれ！抵抗の最前線から

スタジオで日下部キャスターが「国慶節の際、行政長官をはじめ、親中派の議員が北京に行ったんですね。そこでなんか分かれたような気がしますね。今日施行された覆面禁止法というのは、同時に発動された緊急条例に基づくもので、この緊急条例というのが曲者で、行政長官がですね、議会を経ずに様々な規制ができると、例えば夜間外出禁止令とかですね、インターネットの遮断もやろうと思えば、できちゃうわけですね。ただそんなことでは市民を抑え込めないと私は思いますし、もしそういうことをやるとですね、香港が一番大切にしてきたもの、ルールオブロー、中国に無いものですね、これをやってしまうと香港は香港でなくなってしまうと思いますね。」とコメントしていたが、特に注目に値するのは「ルールオブロー、中国に無いもの」という部分であろう。

中国には未だに「ルールオブロー」、すなわち「法の支配」が存在していないということは、東西冷戦は実はまだ終わっていなかったということになるのではないだろうか。